

# 白い谷を蛇行する冬の流れ。

昨夜来の降雪で、沼田市(群馬県)は薄化粧をしていた。月夜野辺りで利根川に合流する西川沿いに、国道17号(三国街道)を北上する。相俣ダムによってできた赤谷湖は、期待していたほど雪が多くないので、なおも北に走る。

湖畔を回り、江戸時代から三国街道を往来する旅人に愛好されたという猿ヶ京温泉(みなかみ町)に入る。眼下に赤谷湖が見える。雪に囲まれた露天風呂も見えた。冷えきった身体が熱い湯を恋しがるが、そうも言っていない。三国峠(新潟県との県境)を目指す。

猿ヶ京温泉を過ぎると谷は一段と深くなり、吹雪になって視界がぼやけてきた。峠に間近い高台でカメラを構えた。谷間を吹き来る風が、氷の塊のように頬を打つ。カメラを持つ裸の手が痛くなり、たちまちしびれていく。

吹雪が息をするのを待つ。しばらくして小降りになり、谷間が姿を現した。純白の河原の中を、西川の流れが一本の黒い筋となって蛇行しながら延びている。すべてが墨絵のようだ。吹雪がひと息ついている間の谷は物音もなく森閑としている。

流れの先が厳冬の三国峠(標高約1,100m)で、西川はその近くに源を発している。



(左) 湯檜曾川上流(みなかみ町)  
少しでも源流に近付こうと、JR東日本・上越線の土合駅(下りホームが深い地下の新清水トンネル内にあり、“日本一のモグラ駅”として有名)を過ぎてからカンジキを履いて谷に入った。深い雪との格闘で寒さを忘れて1時間ほど歩くが、吹雪で山も川も見えない。小降りになり、視界が開けた瞬間の光景がこれ。湯檜曾川は凍ることなく雪の下を流れ、その雪の上には野うさぎのかわいい足跡が続いていた。

(中) 雪の花越しに見る利根川(沼田市)  
河畔の木の枝に夜、雪が積もった。まるで花が咲いたようだ。暗いうちに宿を出てきた甲斐があった。というのもこの“花”は、陽が昇るとすぐに溶けてしまうからだ。

(右) 昏れゆく利根川(赤城町)  
榛名山をバックにした利根川の黄昏である。冬の暮れは早い。夕景を撮ろうと、沈み行く太陽と競争しながら見つけた一枚である。背後からの赤城風が強烈で、身に凍みた。

